

NPO 法人あすみが丘国際交流

No.82 2020.11.3 発行 会員数 876 名(2020.10.01 現在)

住所 〒267-0066 千葉市緑区あすみが丘4-1-6 エクレール土気 101

TEL/FAX : 043-294-9551 E-mail : aifs@eastcom.ne.jp

Asumigaoka International Friendship Society = AIFS (アイフス)

<https://www.npo-aifs.org/> <http://aifs.cocolog-nifty.com/blog/>

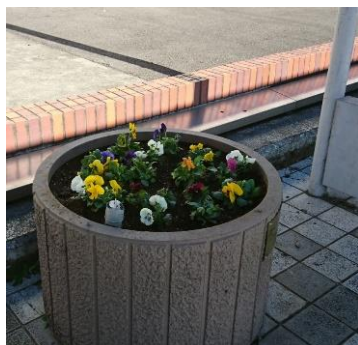


花いっぱい運動

11月10日(火)9時～ 土気駅南側の大型フラワーポットにベゴニアからパンジーへの植替え作業を12人のボランティアで行いました。この秋一番の冷え込みでしたが青空が広がり爽やかな作業日和になりました。この春に植えたベゴニアは夏の猛暑にも耐え花を咲かせていましたが、その後、心無い悪戯に痛めつけられたり、秋口の長雨で根腐れが発生したりで散々な状態になっていました。やっと心とむフラワーポットに生まれ変わりました。

ボランティアの花植え作業や水遣り作業のたびに話題になっているのは、駅舎脇の何とも殺風景なアスファルトで埋められたスペースです。しかも我々のフラワーポットの背後にあって、はるかに大きな面積を占めているのです。(下2つの写真をご覧ください)以前はビオトープとして小さな池と水生植物等が植えられていたのをご記憶の方も多いのでは？

何とか緑と花で潤いと癒しのある空間に戻せないかとの要望が出ています。町の第一印象を左右する場所でもあります。みなさん一緒に考えてみませんか？



Encouraging Participation in the Classroom

Maximillian Gumble

For teachers in Japan who have come from abroad, particularly English teachers, there are a number of difficulties that one faces in the classroom. One that seems to trouble teachers in various types of schools, as well as at multiple grade levels, is classroom participation. It can be difficult to encourage students to volunteer to speak out loud in front of their classmates. It would be easy to simply say that Japanese children are more shy than children raised in other cultures. However, this is reductive, stereotypical, and dismissive of some real factors that can affect student behavior.



In my experience, Japanese students are not necessarily more shy than American students of the same age, in fact, **some are less shy**. For example, I don't think that a class of American high school students would ask me on the first day of class if I have a girlfriend and what type of women I like. I believe that the reason **many** Japanese students are reluctant to participate verbally in class is due to social pressures from their school environment.

First, in my experience, Japanese students are wary of making mistakes, which leads to reluctance to speak out. This wariness possibly comes from a fear of being admonished. If students fear being openly criticized, accosted, or even physically punished, it could certainly dissuade them from trying anything that could cause them to make a mistake in front of a teacher.

Secondly, the Japanese educational system's focus on constant test preparation and rote memorization may play a role as well. In Japanese schools, particularly at the junior high and high school level, English education becomes a means to an end. The end is standardized testing, often for entering a high school or university. Therefore, students are encouraged to focus on memorization of questions and answers, without being given chances to practice using the language for themselves. Therefore, students can feel a lack of confidence in their abilities, as well as a lack of ability to think critically and answer questions that fall outside of a set form.



All of this being said, there are ways as teachers that we can help students to feel more comfortable speaking out and volunteering in class. The first step, of course, is creating a setting in which students feel safe making mistakes. When teaching, it can be easy to feel stressed and frustrated with students, but it is always important to communicate to them both verbally and non-verbally that they are allowed, and in fact encouraged, to make mistakes. In my classes, the students make pieces of paper with their names on them, which they can raise when they want to volunteer. When they volunteer, even if they make a mistake or give an incorrect answer, they can earn a sticker, which gives them a bonus point towards their final grade. In this way, students are rewarded simply for trying.

Also, it is important to give students time to practice speaking and constructing words in a safe environment, such as with a partner. The more students are able to practice expressing their ideas and opinions openly to each other, the more willing they will be to eventually **speak out** in front of the class. In my classes, I try to have students do pair and group work as much as possible to give them time to practice expressing themselves to one or two of their friends, which can build their confidence as well as allow them to get feedback from their peers.

Ultimately, Japanese students are not less likely to speak out in class because of some inborn shyness of the Japanese people. Rather, they are conditioned by their circumstances. A teacher's job is not literally to relay material that students then memorize in order to take a test, but rather to build and maintain a setting where students feel comfortable and encouraged to learn. Therefore, students' willingness to volunteer and participate in class can be seen as a measure of the teacher's ability to create a positive and effective learning environment in their classroom.

〔上記英文の日本語訳です〕

海外から来た教師にとって、とりわけ英語教師にはクラスで直面する難しい問題があります。どの学校でもどの学年でも教師を悩ませるのはクラスでの生徒の参加ということです。生徒に **volunteer** となって自らクラスの前で積極的に発言をしてもらうのは簡単ではありません。日本人の生徒は他の文化で育った子より **shy**、引っ込み思案なんだで済ませてしまうのは簡単ですが、それは生徒をそうさせている真の要因を見逃ごすことになりかねません。

私の経験では必ずしも同じ年齢のアメリカ人生徒より **shy** とはいえませんし、むしろ逆のケースもあります。クラスの初日に私が受けた「ガールフレンドがいるか」とか、「どんなタイプの女性が好きか」といった質問は **shy** ならできないでしょう。日本人の生徒がクラスの会話に参加したくないのは学校環境からくる社会的プレッシャーによるものだと私は思います。

第一に日本人生徒が自主的なクラスでの参加を嫌うのは失敗を恐れるからなのです。この失敗への怖れは叱られることの恐怖から来ているように思われます。生徒は公然の場で叱られたり、肉体的に罰せられたりしたら、教師の前で失敗するようなことを避けるようになってしまいます。



第二に日本の教育システムでは常に試験準備が求められ、丸暗記が必要です。

日本の中学・高校では英語学習は目的ではなく、目的に到達する手段なのです。目的は試験に受かることであり、大学に入学することなのです。だから生徒は英語という言葉を使ってみるより、問題と答えを覚える方に誘導されてしまうのです。その結果、批判的に考えたり、型にはまった問題以外に答えを出したりする能力が身に着かないし、会話をする自信がないことになります。

教師としてクラスで生徒が自主的に参加することができるようにしていく方法があります。

まずは、失敗をしても安全あるいは損をしないと感じさせる場を用意することです。生徒にはミスをするのは許されているし、むしろ奨励されているということを口頭でも態度でも伝えていくことが重要です。私のクラスでは生徒が進んで発言したい時には予め用意した名札を掲げ手を挙げてもらうようにしています。生徒が自主的に参加するなら、それがミスであってもステッカーがもらえ学期末の成績にボーナスポイントとして反映されます。こうすれば生徒は挑戦しさえすれば報われるのです。

また、生徒には怖がる必要のないパートナーという環境を作って練習させています。より多くの生徒がアイデアや意見をお互いにオープンに述べ合えば、クラスの前で意見を述べてやろうという意欲も生まれてきます。私のクラスでは生徒の中でペアやグループを組み 1 人か 2 人の友人と会話をするようにして、自分を表現する自信をつけさせるとともに友人からのフィードバックを得られるよう仕向けています。

結局のところ、日本人の生徒は生まれつきの **shy** でクラスに参加しないのではなく、環境がそうさせてしまったのです。教師の役割は、試験を受けるために覚えるべき内容を教えるばかりではなく、彼らが失敗を恐れず英語という言葉学ぶ場を用意してあげることです。だから、クラスに **Volunteer** として自主的に参加しようという気持ちが生まれてきているとしたら、それはクラスに積極的かつ効果的な学習の環境を創るという教師としての努力の成果でもあると思っています。



今回は土気高校の英語教師 Max さんに寄稿をお願いしました。教室で発言や手伝いを求められた際に手を挙げるのも **volunteer** というのですね。そういえば義勇兵や志願兵なんていうのも

volunteer だったはずですが、自主的に手を挙げて参加すれば、ミスでもボーナス点がもらえて学期末の成績に反映される。こういう先生に教わったらもっと英語がうまくなったかもしれません。これって英語という教科だけの話でもないし、学校だけの話でもないですね。ミスをおそれず挑戦する社会にシなくてはというのはビジネスの話でもあるわけです。

あすみが丘再発見①・・・ ホキ美術館 (千葉県緑区あすみが丘東 3-15) 「振り向かない彼女」

私が見つめてもこちらに向いてくれない彼女はとても美しく永遠に年を取らない・・・・。実はホキ美術館の美しい女性の絵に永遠の片思いをしてしまったある中年男性の話です。私は絵を見るのは好きですが、絵を含め芸術関連に興味が無かった私が会費を払ってまで美術館に向かうことになったいきさつをお話します。当初、9丁目の自宅から愛犬との散歩を目的に昭和の森に向かって散策しましたが、小型犬では道のりが長く、途中でギブアップ。その為、犬との散歩を諦め、一人で散歩を始めましたが単に自身の健康の為だけではなく、昭和の森に向かう為の目的を求めていたところに、ホキ美術館のリニューアルオープンしたことを知りました。そこである意味写真よりも美しく特異な写実画に描かれている「彼女達」に会いに行くことを目的に年間会員になりました。当初は入館料 1,830 円が高かったと思いましたが、自宅から歩いて行けると「いつでも会いにいける」ホキ美術館が存在することでとても身近な存在になり、年間会員証 1 万円 (約 6 回分相当) を活用しています。改めて「あすみが丘」に住んでいることに満足しています。

世の中はコロナ禍にあり、今まで通りの生活は未だ難しいですが、決して視線を合わすことなく、凜としてそこに静かに佇む彼女達の存在にとっても救われています。

理事 金子和弘

このニュースレターをお読み頂いた皆さんにも、あすみが丘で色々な発見があると思いますので、是非、記事をお寄せください。テーマは「あすみが丘再発見」です。よろしく願いいたします。

プラザ祭り

プラザ祭りは 11 月 29 日 (日) の 10:00 より体育館のみで行われます。新型コロナウイルスの終息が見えず海外留学生の入国が出来ない現状で、今回 AIFS としてあすみが丘在住の町田氏の「落語」を催物として企画しています。

場所 1 階体育館

新型コロナウイルス感染防止の為にもソーシャルディスタンスを充分とるようにしています。

開始	団体名	演目
10:00～	猫袋	楽器演奏
10:30～	プリエの会	クラシックバレエ
11:00～	みどりの気功クラブ	気功
11:30～	あすみっこ隊	よさこい踊り
12:00～	グリーンマジック	マジック
12:30～	あすみが丘国際交流	落語

お知らせ

総会の開催日は 2 月 14 日 (日) 10:00～12:00 あすみが丘プラザ 多目的室と決まりました。

編集後記

新型コロナウイルスが終息しない現在、消費を喚起する施策として政府が発表した GoTo キャンペーンが行われています。GoTo トラベル、GoTo イート、GoTo イベント、GoTo 商店街等々これにより消費がより喚起され、日本経済の活性化につながれば有り難いです。一方で経済の方にペダルを踏むとウイルスが勢いを取り戻すのが世界中のジレンマです。